

## 環境影響評価法に基づく環境影響評価準備書が提出されている 「さいたま小川町メガソーラー」事業における造成計画について

令和3年12月9日  
埼玉県環境影響評価技術審議会  
特別委員 蔣 景彩

### ①前提

全般的な施工方法や使用する盛土材、締固めの管理方法などの詳細が記載されておらず、具体的な意見を言えるレベルではない。

規模が相当程度大きい盛土工事を予定していることを考慮すると、評価書の段階では、盛土の設計・施工・維持管理は、例えば「日本道路協会 道路土工 盛土工指針」の該当部分に準じて行うなど、明確な基準に従って実施するか、盛土の設計・施工・維持管理における具体的な方策・方法を示すこと。

### ②盛土

事業計画では40m程度の盛土高が確認されるが、技術的に難しいため通常の造成工事ではあまりなく、安全性の確保は難しいものである。盛土のトラブルはこのような高い盛土、特に沢地形や斜面上の高い盛土が多い。地震時の影響を含め、設計段階から安定性を確保するための対策を考慮しておくこと。

土石流危険渓流の上部に盛土造成工事が計画されている可能性がある。そのため、地震が起きても崩れない盛土の設計を行うこと。想定外の地下水位の上昇や地震により盛土が崩れた場合の下流域への影響の評価を行うこと。

盛土の維持管理は、災害を未然に防止することを目的として実施する。のり肩、のり面、排水施設等の損傷等がないかなど、「日本道路協会 道路土工 盛土工指針」に準じて管理すること。

### ③切土

崩積土を切土すると風化が早くなることから、切った後の斜面における崩壊や地すべりに注意が必要である。このような動きがあった場合、対策が必要となるので、状況を注視しておくこと。

切土の部分、特に固結度の低い崩積土や地質構造的に不安定な要因を持つ斜面を切ると、背後の斜面が不安定になり地震動により崩れ落ちる可能性がある。

土石流危険渓流の上部における工事計画であるため、土石流渓流内の発生土砂量の増加や土石流化した場合の流出土砂量の増加につながる可能性があるため、災害につながらないよう、切土面についても管理していくこと。

切土面について、自然地山の不確実性によって維持管理の段階で不安定となる可能性がある。また気象作用や豪雨・地震等による自然地山の劣化も考えられる。そのため、切土法面についても災害を未然に防止することを目的として維持管理を行う必要がある。

のり面のみならず、周辺の自然地山の状況も注視するなど、「道路土工 切土工・斜面安工指針」に準じて管理すること。

#### ④地下水（水象）

場内の切り盛りにより、地下水位への影響が考えられる。盛土内の地下水位上昇による盛土への影響も懸念されるため、地下水位が高くならないように十分な排水施設を設計・施工すること。また、盛土ができた後も、当該事項の継続的な監視と、地下水位の上昇が確認された場合は、水位を下げるよう対策すること。

峰の部分の切土計画により、分水嶺の変更による雨水流出方向が変化することから、当該事項を考慮して雨水流出抑制施設の容量等の検討を行うこと。